

(変更)

『後継者と共に高みを目指す農業』プラン

米子市

認定農業者

後継者

友森 一夫

## 1. 現状と課題

### (1) 反収・品質の状況と規模拡大後の高反収化

現在の白ネギの栽培面積と反収は表1のとおりです。(家族4人で、春ネギ43a・夏ネギ51a・秋冬ネギ52aの計146a)

弓浜地区では年間の平均反収1000箱(箱3kg)/10aを目標とする農家が多いなかで、昨年は1,369箱/10aを達成できています。また、秀品率も年間を通して75%以上でした。

高い収量を上げるためのネギ栽培では、生育状況を見ながらの適当な肥培管理の他、土作りやセンチュウ、黒腐菌核病、軟腐病、萎凋病やスリップス、ネギハモグリバエなどの病虫害防除をしっかりと行うのはもちろん、夏期高温乾燥、冷夏長雨、ゲリラ豪雨、台風などの自然災害でも収量品質を低下させます。これらを事前に防ぐためには日々の十分な圃場管理が必要で、これまで自分が培ってきた管理技術をもとにほ場ごとの生育状況をしっかり把握することが必須です。現在の経営規模も私がすべて管理できる範囲と言うことで拡大をしてきませんでした。

このたび孫が新規就農者として加わってくれたことを契機に、今後経営規模の拡大を図っていきたいと考えていますが、規模拡大後も反収を高い水準で保つためには、増反により圃場での管理時間、収穫皮むき調製・選別・出荷作業が増えることが見込まれることから、現在の作業体系(表2)を見直し、管理作業に当てる時間を生み出すことが課題になります。

表1 我が家の白ネギ出荷実績(令和元～2年)

作型	作付面積	収穫量(箱)	反収(箱/10a)	秀品率(L, 2L)
春ネギ	43a	6,231	1,499	74.3%
夏ネギ	51a	5,345	1,048	84.1%
秋冬ネギ	52a	8,420	1,621	72.0%
合計	146a	19,996	1,369	75.9%

表2 作業体系の例(春ネギ)

作業及び作業者	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作業全体						●						
						植付溝堀		定植		培土		防除
		防除		収穫・皮むき調製 選別・出荷								
友森 一夫 (私)		防除		収穫・皮むき調製 選別・出荷		植付溝堀		定植		培土		防除

クへの積込みの一連の作業がありますが、「収穫機」の導入によって①～③までの作業を同時に行なうことが可能となり、大幅な省力化につながります。

その結果生じる時間世余裕で圃場ごとの生育状況の把握や防除、除草、施肥、そして土寄せ等の作業に振り向ける時間が生まれ、圃場全体に目配りができる管理作業時間として振り向け反収の向上及び所得向上に結びつけることが可能となると考えています。

## (2) 栽培技術の向上

自分自身はネギ栽培の経験が豊富にあると自負していますが、未だに育苗に失敗することがあり、さらなる高い目標を設定して栽培技術向上へ向け研鑽を積む必要があると考えています。具体的には、創出された時間を有効に使い積極的に JA 鳥取西部、西部農業改良普及所を通じて技術指導を仰ぐこと、そして経験豊かな農業者との情報交換等を行なうことにより失敗しない技術の習得に向けて努力します。

また同時に、後継者である孫にも地域はもちろん全国的な青年農業者グループが行う情報交換会、技術研修会そして交流会等に積極的に参加させ、見聞を広めさせてやりたいと考えています。(地域の若手白ねぎ農家の会：夜見の会、O-meeting、Next等)

### <習得すべき新しい技術>

#### ① 作型ごとの多収、高品質な新品種栽培方法

最近新しい品種が毎年のように出ていますが、時期にあった良い品種の導入のための試作と情報収集が必要です。

##### 新品種の試作候補一覧

春ネギ 羽緑2号、初夏扇2号

夏ネギ 羽生一本太

秋冬ネギ 龍美、夏の宝山、大地の響き

#### ② 苗質向上のためのコート種子の利用と発芽からの育苗管理方法

従来は経費を考え裸種子を用いていますがセルトレイの穴あたりの播きむらや発芽に差があり、定植時には苗の太さにばらつきが出てしまい、それがそのまま収穫まで差が縮まらず細ものの割合が多くなり出荷箱数が少なくなってしまう。コート種子を用いセルトレイの穴あたりの播種数と均一な発芽で太さの揃った苗を作るための育苗管理技術の習得が必要です。

#### ③ 連作障害回避のためのほ場管理方法

毎作ごとにセンチウ対策の土壤消毒を行っていますが年々生産性が落ちてきています。畑を休めるための緑肥や地力の増強のための微生物資材等これまで利用していなかった資材について取り入れてみたいと思います。

#### ④ 安定した収穫が難しい夏越し作に適した肥料、農薬の使い方

従来の緩効性肥料では梅雨期から盛夏期にかけての肥効管理が難しいため分解過程の異なるオキサミド配合肥料やCDU肥料などを利用してみたい。

【表5】年間労働日数

(単位 日/年)

従事者名	令和2年 (現在)	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年 (目標年)
友森 一夫 (本人)	320	310	300	288	288	288
██████████ (妻)	250	230	210	190	190	190
██████████	300	290	288	288	288	288
██████████ (孫)	300	290	288	288	288	288

## 4. 年次別事業計画

## (1) 現在所有する主な機械機器類及び導入予定機器

【表6】主な所有機械及び導入予定機械 (別紙減価償却資産一覧から抜粋)

	名称	能力	数量	導入年	導入方法
保 有	トラクター	██████████	██████████	██████████	██████████
	大型耕運機				
	管理機				
	セット動噴				
	根葉切り機				
	皮剥ぎ機				
	結束機				

	機械名	性能	台数	導入年及び事業費			
				令和2年	令和3年	令和4年	事業費
導入予定	定植機	1条	1		◎		1,540千円
	収穫機	全自動	1	◎			4,587千円
	トレーラー	1台	1	◎			943千円

※◎がんばる農家プラン事業を活用